

# 六甲の草と虫

林中元 著

B 6、32ページ、定価30円、送料8円、図48種

神戸市教育長、木戸只一氏の「発刊を祝して」と題する緒言に

神戸市民のオアシス六甲山、この山の主みたいなのが、林中元君である。君が六甲山頂に住居を移してから、もう幾年たつたか数えて見たことは無いが、若い20代の頃から六甲山と共に起き、六甲と共に寝てきた男である。

六甲山のどこに、どのような植物が生いたち、どこ谷にどのような虫が生活しているか、鏡に写すよりも、もつと確かさをもっているのが君の頭脳である。

夏は北海道まで、冬は鹿児島のはてまで虫を追い、植物を求めて寧日のない君の生活、こうした研究もすべて六甲の虫と植物とを意味づけるための東奔西走のすがたである。

今回その成果のほんの一部を一冊子にまとめて世に送ることになったのは何よりの喜びである。特に神戸市民のように、四季を通じて六甲に親しみ、六甲と共に暮らしている者にとっては、この上ない読物である。わけても小学校や中学校の児童生徒の方々にとっては、この上ない理科の案内者である云々。

上の文で総て推薦の言葉が尽きると思う。林先生は、この度、六甲山の動植物の中から子どもの印象の深い動植物、市民に親しまれる生物、特産の特別保護の必要のある植物、神戸市民に対して有用な植物など、100種内外を選んで公にされた。正確な図と言い、適切な文章と言い必ず登山者に六甲の生物研究へ



の啓蒙の書物となることであろう。

こうした書物が地域別に市民の科学知識に則した生物の読物が次々と出版され、それぞれの郷土民に郷土を充分認識して貰う資料として出版されることを希望する。

因みに林中元先生は神戸市兵庫区六甲山小学校の教頭先生です。

本書御希望の方は直接同先生へ御申し込み下さい。切手代用も可、カットは同書の表紙である。

(室井 紳)